

第1回わかやまリノベーションまちづくり構想検討委員会 議事概要

日 時 平成28年7月15日（金）午後6時～午後9時

会 場 ぶらくり丁商店街

出席者 嶋田委員長、梅田委員、小川委員、樫畑委員、源じろう委員、小泉委員、武内委員、豊田委員、永瀬委員、吉川委員、依岡委員

主な議事

- 1 主催者挨拶
(商工振興課 小嶋課長)
- 2 和歌山市のこれまでの取組背景と現状について資料に基づき説明
(商工振興課 榎本班長)
- 3 リノベーションまちづくりについて資料に基づき説明
(嶋田委員長)
- 4 検討委員会委員の自己紹介
- 5 構想検討委員会について資料に基づき説明
(嶋田委員長)
- 6 フリーディスカッション

吉川委員 小さい頃から市堀川を見ている。昔は汚かったが今は大分きれいになった。自然環境がだんだんと時代とともに変化している。もっとまちなかに自然、木、芝生、緑がたくさんあればよい。

源じろう委員 ニューヨークのセントラルパークのようなものがあればよい。

馬越さん 大阪に住んでいるが、和歌山は緑にあふれている。この辺は緑がないので、緑がほしいと思うのはわかる。和歌山高校のすぐ前の山には田んぼがあり、高齢者ばかり。田畑の食べ物が盗まれても対処できない。

そこにある自然に対して、そこにいる人たちが価値を見出せていないのを何とかしたい。そこにいる人たちが、もてはやされていることを、喜んでくれることを、どうやって感じてくれるか。まちだけで緑を考えず、交流を活性化していかないと駄目だと思う。

池田さん 夢のあるアイデアに提案するのだが、まちなかに農地をつくって、

特に今だと、幼稚園とか、保育所とか、小学校とか、中学校がどんどんまちなかから撤退している。そこへ新型農園を作って、市民の方に農で楽しんでいただく。今ある市民農園のように農地だけがあり、自由に好き勝手つくってくださいというのでは耕作放棄地になってしまう。肥料も苗も作り方も農機具も全部セットした体験型市民農園というのは、確か東京で起こっているのだが、和歌山では鳴神につくられて、今盛況で成功しているので、それをまちなかにもってきて、先ほどおっしゃっている緑のあるまちと、農で楽しむまちを実現させていただきたい。

嶋田委員長 まちなかの駐車場の稼働率も低くなっているのではないかと。結構たくさんあるコインパーキングや月極を農地にして、このあたりの飲食店で食べられるようにするとよいかも。しれない。

鵜飼さん 駅前へのけやき通りをすべて森にする。当時の県土整備部の局長にできるか聞いてみたところ、20～30年かければ十分できる。人口も減っているし、それくらいのスペースはとってまちなかも交通が悪くなることはなかろう、と返事もらった。それをまちなか全体に提案し、一つの案として一応まとまったが、全てパーになった。これを復活できたらよいと思っている。

福本さん 皆さん花見をされていると思うが、和歌山城の桜も老朽化しており、危惧している。今は花見できる桜があるが、将来なくなってくるので、まちなかづくりと合わせて将来的に和歌山の子どもたちも花見がずっとできるようなまちなかをつくっていったらよいと思っている。

奥畑さん 和歌山市生まれで、この近辺で20年以上飲食業をしている。昨日縁があつて、大阪外食産業の経営者たちが集まる会合に出席した。60人くらいの経営者がいるのだが、誰一人としてお客さんを呼ぶにはどうしたらよいのかという話がなかったのは面白い。どうしたら従業員が来てくれるのか、というお話が多かった。飲食業が、お客さんを呼ぶ広告費より、求人広告にかかる費用の方が高くなっている。お客さんが来なくてつぶれるのではなくて、人が辞めていくから店がつぶれてしまうという、10年くらい前には考えられないようなことになっている。

空き家を埋めることも大切だと思うが、そもそもお店に働きに来てくれる雇用を生むこと、空き家を埋めた後のことまで考え、労働力の流出を防いで囲い込みできるような和歌山市の取組、県外に流れ

ていかないような取組をもっとディスカッションする必要があると思う。おしゃれなお店の厨房は決しておしゃれとは限らない。今も昔も飲食の作業は地味で、地道な作業だということをもっと広く知ってもらって、雇用を生めるような環境、ディスカッションができればと思う。

豊田委員

2050年には25万人の人口になっている。日本全体で9,700万人というのが、2050年の姿。そうなったときに、人口の構成も変わってくるわけで、果たして国の税金で我々の生活が維持できるのか、ないしは市が25万人で維持できるのか。40万人の和歌山市民として中核市になったときに帰ってきたが、今は36万人で1割減っている。1割減るということは、飲食店の方からすれば10%の売り上げが減るとのこと。和歌山県の人には結構独立精神が旺盛なので、飲食店がとともいっばいできるが失敗している。

そのような中で、我々はリノベーションを考えていくときに、何を必要として、何を捨てるのか、つくると同時に、何を捨てるのかを考えていかなければならない。今の森の構想も素晴らしいが、それを維持するにはどれだけのお金がたって、どれくらいの森を維持するための雇用があるのか。そこに集中するならば、何かの工業的なものを捨て去らなければならないのかなどいろいろ考える必要がある。市議会議員が40人くらいいても何も考えられない。

我々民間に限られた中で、やはりこうあるべきだという未来を見据えてつくり、それを政治なり、行政なりの人に逆に提言していき、してくれない人は落ちていきなさいという形になっていかなければいけない。我々のパイが少なくなっていく中で、議員数がそれほど減っていない。まだ増やせという人もいる。我々がこれからの1年間を担うと思うから、様々な観点から物事を見て進めていく必要がある。各地のいろいろな事例を見ている嶋田委員長を中心に現実的な采配を我々も学んでいながら、本当に理想的な和歌山市ができたらよい。

嶋田委員長

何を捨てるかという議論はあまりされない。民間だからこそ言えることかもしれない。

梅田委員

フォルテワジマを運営している。母から引き継いでまだ2年であり、まだ会社自体を運営していくのが精一杯。小さい頃はぶらくり丁の人を避けて通り、お店に入り、フォルテワジマの前の丸正百貨店の屋上で遊び、レストランで食べて、ウキウキして帰っていつ

た。今の若者が大阪に行くのと同じような感覚でこのぶらくり丁に来ていた。

フォルテワジマができた頃は、1日2、3人、おじいちゃん、おばあちゃんが歩いている状態で、本当に人がいなかったが、石窯ポポロができ、月1回のポポロハスマーケットで、人を押しのけて通らなければいけないくらい、とても人があふれている。おかげでフォルテワジマにも人が流れている。段々人通りも多くなって、更に来年4月に城北小学校跡地に小中一貫の学校ができるので、子どもたちの人数も増え、それに関わる両親や祖父母も増え、和歌山城の前の伏虎中学校の跡地もいろいろ考えられているようなので、そこでも人が増え、どんどん人の流れができてくると活気付いてくると思う。

依岡委員

和歌山にJリーグを作るため、アルテリーヴォ和歌山に携わっている。アルテリーヴォの旗はぶらくり丁にかけてもらった。地域のために何かできることがないかということで、55歳から独立したTONPEIという歌手がおり、同級生なので応援している。京橋を渡った角のビルに会社のビルがあり、その5階でアルテリーヴォ和歌山の事務所を無料で9年間貸している。

私は24歳で独立し会社を作ったのだが、若い方の力になればと思う。不動産業もしているのですが、利益にならなくてもと言えば大げさになるかもしれないが、皆の力になりたい。会社も7階が空いており活用していただければと思っている。皆の行っていることとかけ離れているかもしれないが、豊田委員と一緒に和歌山を元気にしていきたい。若い人たちの意見を聞き、少しでも力になればよい。

樫畑委員

本業としてビルの管理を行い、他に西浜方面でインテリアショップを経営している。また、本町周辺に不動産物件、建物、オフィスビル、マンション等も所有している。3年程前からリノベーションという言葉をとときどき聞いていたが、リノベーションという言葉が出るたびに、源じろう委員みたいなものとしか認識していなかった。今日話を聞き、非常に共感することがたくさんあった。

今まで和歌山が寂しくなりこの先暗いと思っていたが、逆に嶋田委員長がおっしゃっていたように、スモールエリアを開発していくという中で、この周辺に小さいけども、魅力的で個性的なお店が連なるような小道ができたかと考えていると、その空き家が宝の素とも考えられ、自分自身何かできないかと思った。この委員会は6回あ

ると聞いているが、是非何か自分でもできたらよい。

嶋田委員長 もし空き家を所有していれば、是非リノベーションスクールに提供していただきたい。

永瀬委員 私はまだ和歌山市に来て5年目で都市計画専門。和歌山市駅前のまちづくりに携わっていたところ、リノベーションスクールの話があった。和歌山大学のシステム工学部に同じ都市計画の小川先生がおり、小川先生が民間の遊休不動産をどうするかを考え、私は公共空間をどうするかを考えるよう、役割分担した。和歌山市駅前は、ぶらくり丁商店街以上に体力が落ちており、組合としてもほとんど機能していない。道路も交通量も減っていく中で、まちの軸になる公共空間を考えている。高齢者も多い中で、地元や若手の方に来ていただき、学生が入り刺激を与えながらワークショップをし、まちづくりを考えている。最初は半信半疑だった高齢者の方々もだんだん参加し、議論ばかりしていても仕方がないのでアクションをやろうということで、補助金をもらわずに昨年グリーングリーンプロジェクトという市駅前通りを芝生にするプロジェクトを実施した。ワークショップ自体は行政の補助金をもらっていないので、2ヶ月に一回くらいのペースで開催している。そういう中で、地元の人と一緒に実験的な空間利用を考えましよう取り組んだところ、結構盛況であった。

そういうことをしていく中で、リノベーションの取組に参加する学生も増え、少しずつ接点ができてきた。和歌山大学は山の上に移動し、大阪から通ってくる学生がほとんど。県境をまたいで、数百メートルきたところで授業を受け、最近できたイオンで買い物をして遊んでそのまま大阪に帰ってしまうという学生ばかりになった。学生も中心部に降りてこようというモチベーションが全くなく、居場所もない。やはり学生の居場所を少しでも作らなければならない。吉川さんのお店や RICO などができてきたので、そういうところにも出入りする学生もでてきた。まちなかにどういう場所を作るべきなのか、大学の人間として考えていく。買い物よりも良い雰囲気の中で、おしゃべりができる場所があれば本当はよいのだが、まちなかでそういう場所はあまりない。デートをしにまちなかにくるという学生はあまりいない。

昔はぶらくり丁がにぎわっていたという話があったが、当時の学生のように購買意欲だけでまちなかに降りてくるわけではない学生の

ニーズを受け止めるようなまちなかのあり方とは何か。お金は多少使いながらでもいいのだが、地元の人とコミュニケーションするきっかけもない中で、意外とボランティアをすることには興味のある学生が最近増えていると思う。そういう地域のコミュニティに巻き込むきっかけやそういう場を作る中で、そこから派生するビジネスもあるかもしれない。学生がリノベーションスクールなどで若手の人と一緒にしてお店をやりたいという話も出てくると思う。そういうつながりを持てる場所をいかにまちなかにアウトプットしていくのかということがとても大事なことだと思う。

大学も今年から県の地方創生戦略にのっかって、国の補助金をいただいているが、和歌山大学を卒業して和歌山県内に就職する学生を増やすための新しい副専攻のプログラムがありそのメンバーになっているのだが、一般的な企業の受け皿がない中で、若者が起業する、皆のように面白い仕事を自分で創り出して、まちなかで起業するようなシステムをきちんと作りそれを発信していけば、それを魅力に感じアクティブに活動する学生が既に出てきている。この機会にそういう学生を巻き込めるような仕組みを作ればよい。

嶋田委員長 北九州では、リノベーションスクールを通じて大学卒業前に起業する学生が数人現れ、まちなかでお店を継続している方も何人かいる。そういう方が出てくればよい。

和気さん 奈良県立大学地域創造学部に通っており、こういう地域のことを毎日身近に考えている。私自身とても和歌山が大好きで、ずっと住み続けたいと思うが、友達は、和歌山は本当に何もないという感じである。将来の和歌山がこんなよいところがあると自慢できる県になれば、ずっと皆が住んでいける楽しい県になると思う。

山下さん 憩いの広場が必要だと思う。和歌山では、ラジオ体操やヨガが各地で行われている。憩いの広場があれば、朝からおじさん、おばさんが交流したり、天気のよい昼間は、子連れのママさん友達が集まって、カフェで話したりできる。何をするのかではなく、集まることができる場所が必要である。

芹澤さん 私は原発の事故が原因で和歌山に移住してきた。先ほど、若い子たちが和歌山に何もないという話をするという話があった。和歌山の人たちは本当にとっても優しい。東京や大阪で原発の事故により引っ越してきたという話をすると、茶化されたり、東京に住んでいて危

ないならば福島の人たちはどうするのかとよく言われたりしたが、和歌山の人たちはとにかく優しく、そういうことを絶対に言わない。それは大変だったなと皆言ってくれて、そういう優しい人たちが住んでいる、和歌山の人たちは皆心が優しいというだけでも財産だと思うし、何も無いと思わなくてもよい。和歌山の人たちは優しいというのを、自信を持って財産だと思ってほしい。

嶋田委員長 私も同感。大阪の人は苦手だが、和歌山の人はやわらかい。これは大事な資源。

堤さん 加太出身で、小川委員が行っている加太の映画祭で、一会場を提供している。今は大阪に住んでおり、映画祭のときだけ帰り、3日間限定で小さいカフェをしている。今年も是非映画祭に来ていただきたい。築70~80年の、祖父の代からしていた織物工場があり、映画祭を主催している和歌山大学の学生や小川委員がそこを発掘し、ここで映画祭を行いたいと4年前に話していただき、その工場跡の倉庫を毎年会場として提供している。それがきっかけとなり、今年86歳になる母と近所の82歳の親戚の方が、いっぱいある生地を使っておばあちゃんの裁縫箱というのを起業した。大したことはしていないが、とりあえず扉を開き、黒板に看板を書き、表に出し、扉を開けておくだけで、友ヶ島に行く船着場の通り道であるため人がたくさん入り服を作るなど、そういう方とのつながりができている。本当に小川委員との奇跡的な出会いで、偶然扉をたたいてくれたのが小川委員たち。先ほど源じろうさんから、一軒の店がまちを変えるという話があり、とても勇気をもらった。ただ、3日間限定なので、それを年間として集まる場所にしたいというのを目標にしている。子どものことが片付いたら加太に戻り何かしたいと思っているが、お金も人手もアイデアもなく、今日は何か勉強になればと思い参加した。加太には宝がたくさんある場所だと信じている。皆の力をこれからもお借りできたらと思っている。今日は本当に参加できてよかった。

嶋田委員長 加太に連れて行ってもらったが、古い漁村のまちの木造ストックや廃業した民宿がとてもたくさんある。これはストックの塊。和歌山のまちなか以上のポテンシャルがあるのではないかと言ったら、市役所の職員にまちなかを考えてほしいと怒られた。加太とまちなかをつないで考えようと提案した。両方とも大事な和歌山の資源。加

太とつないでいきたい。

武田さん

和歌山市役所の職員で、第1回リノベーションスクールの参加者。若者が集まる場所がないという意見がよく出ると思うが、若い人たちが真似をしたい大人、和歌山の大人が恐らく見えていない。若い人たちが今日ここにいる方たちを知ったら、私もこうなりたい、和歌山でやりたいと思えると思う。私は、源じろうさんや吉川さんの影響を受けている。ちなみに、ザ・オフィスという和歌山市内で活動している人たちが格好よくて、東京の劣化版コピーをやったらだめ、和歌山にしかない格好よいものをつくらないと意味がないと神谷さんが話をしており、私はザ・オフィスにもとても影響を受けている。

神谷さん

コーヒー屋をしながら、デザイン業をしている。海南市の駅前を使って、年1回のイベントをしている。昨年が第1回開催で、和歌山に格好よくておしゃれで、かわいいものがたくさん来てくれた。きっと週末は京都、大阪に出かけているのだろうと正直がっかりした。うれしい反面、普段そういう人たちは、和歌山以外の店に行っている。私はもともと東京や福島にもいたが、原発から帰ってきたが、東京以外の他の都市部ってというのは和歌山とほぼ一緒。新潟、福島、大阪にも住んだが、どこも同じ状況。若い人たちがその場に住みながら、そこで働いている人たちの背中を見て、格好いい、そうになりたいというサイクルがしっかりできているまちは、ずっと状況はよいだろう。新潟市、長野県松本市、石川県金沢市では、小規模店舗があり、皆が集う公共の美術館やショッピングセンターがあり、その全てがパッケージになっており、学生がいる。和歌山は分散し、バラバラになっている。イオンの誘致にしてもそうだし、県立美術館のあるところに以前和歌山大学があったが、その時代は今の和歌山を全然考えていなかった。3年前にとっても期待して和歌山に戻ってきたが、まち自体がバラバラすぎてどこから手を出してよいか皆わかっていない。3年前にぶらくり丁界限で店舗を探したが、4000万円を買わないかとか、家賃25万円とか、ふっかけてきた。スタートアップの人に対してとても不親切。今でこそリノベーションスクールがあり変わりつつあるが、今までチャンスロスを散々してきたのだろう、その集積が今なのだろうと思う。もっとオープンで開放的であるべき。小規模事業者が集まるまちは楽しく、今言ったサイクルが生まれるきっかけになるというのは間違いな

い。和歌山に唯一ある和歌山大学の学生は、全部阪南に取られているというのはいらない。例えば、もう少しまちなかに来てくれるきっかけ、それが何かはわからないが、もう少し学生に対してのアプローチをしっかりとすべきだと思う。

かしはらさん 普段は建築の設計をしているが、先ほどのアーケードというイベントを4人で行っている。大阪出身であり、和歌山生まれではないが、和歌山大学へ入ってからずっと和歌山にいる。先ほど源じろうさんが言った西本ビルで設計事務所を開いているが、私の先生が設計事務所を西本ビルでしており、1階に源じろうさんが入ってきたとき私は学生でずっと西本ビルに通っており、模型を作っていた。源じろうさんの身なりや行っていることを見て、和歌山はおもしろいと思い出した。源じろうさんやいろいろ格好いいことをしている大人の方の背中を見ながら学生時代を過ごした。音楽が好きだったのでクラブに行ったり、格好いいお店に行ったりしていた。そういうものがどんどん蓄積され、そのまま和歌山にしようと思った。格好いい大人はたくさんいるし、ここにいる方も皆すごいことをしていると思うので、それを一堂に会せるイベントをセレクトできないかということでスタートした。昨年1回開催し、今年また2回目を開催する。先ほど和歌山には全然格好いいものがないということが挙がっていたが、全然悲観的に思っていない。まずは自分たちが格好いい仕事をし、格好いい背中を見せることが大前提。それを若い人にきちんと見せ、イベントで皆が格好いいと思える部分を見せることで、少しずつ変わってくると思う。1年目のアーケードでシンクオブタウンというサブタイトルをつけたのだが、そのときに夜な夜な海南のバルで、和歌山市だけではなく、海南市の現状を見て、どうしたらまちが面白くなるか議論した。そのときの議論やまちに対する思いを一年目に詰め込んで、タブロイドを出し、発信を何となくしたが、結果的には、あまり現実的にできることでもなく、皆思っていることであるため、言葉にするのをやめ、2年目はシンクオブタウンのサブタイトルを消した。立ち返って、自分は設計をしていて、神谷君はデザインをしていて、格好いいことをしているので、とにかく自分たちが格好いいと思えるものをつくったり、イベントをしたりということではしか見せつけられないと思った。原点に戻り、先ほど源じろうさんが言ったように、自分の感動を一人でも多く伝えるということをやらなければいけない。2年目はそういう目標のもと、計画を練り直しているところ。若い人にとっては今が

チャンス。今源じろうさんのところではアルバイトを募集している。先ほど言われていたように、働くところはたくさんある。格好いいお店もたくさんある。そこでバイトできることは、とても羨ましい。若い人はもっと積極的にまちに出て、扉をたたいてほしい。勇気がいると思うが、リノベーションスクールでもよい。建築の仕事をしているので、不動産情報を目にすることが多い。リノベーションスクールで空き家の調査をしているが、その情報をもっと見ることはできないのか。源じろうさんは空き家を見つけるスペシャリスト。結局、皆個別で探している。不動産屋におもしろいお店はないか、お店ができるような倉庫はないか聞くが、有用な情報は出てこない。それは今リノベーションスクールで扱われている中にたくさんあると思う。それをもう少し開示して、開示されていればどこで見ることができるのか教えていただきたい。

嶋田委員長 和歌山市の榎本さんに空き家の場所を教えていただき、直接オーナーさんのところへ行くのがよい。空き家バンクではなく、格好いい空き家の不動産情報サイトや、和歌山のまちなか、加太などの小さいエリアでそれがあれば格好いい。ビジネスが成り立つ気がする。やる人はいないか。

にしがみさん 和歌山大学観光学部から来た。先ほど若い人がここに来ないという話があったが、私は大阪の堺出身で、和歌山に何の縁もない。今は武内委員の水辺座で働いていて、そこの出会いがあったからこそ、今和歌山にいるのがとても楽しい。就職は和歌山を離れようと覚悟したが、28歳になったら和歌山に戻ってきて起業しようと決意した。そういう友達、仲間が周りでとても増えている。私は昨年1年間アメリカに留学をしていたが、一度外に出た周りの仲間たちが和歌山は良い所と改めて思い、戻ってきた。本当はここで皆とつながるのがこれからの和歌山にとってとてもよいと思う。和歌山大学の学生は、遊べる場所を欲している。遊べる場所がないからこそ和歌山に対して不満を持っているが、今の話を聞くと、実際遊べる場所はたくさんあると思う。ここに来たいが来られない。その理由は、おそらく来る手段がない。飲みに行きたいが、原付で来るため帰りはどうするのかという単純な理由だけ。集めてこようとしたら、たくさん集めてくる。交通手段を何かしら考えよう。

嶋田委員長 和歌山大学生が飲んだ後に帰るマイクロバス運行、タクシー運行はビジネスになる。すぐにでも事業化できる。プロジェクトが一つで

きた。

和歌山のまちでこうやりたい、こうなっていたらという議論が実現できる場にしていきたい。次回以降も是非参加していただき、いろんな人の意見であるビジョンを作っていきたい。

7 今後の進め方について資料に基づき説明
(商工振興課 清水副課長)

(当日の様子)

